

## 第 11 回宮本賞・受賞作品、決定！

2022 年 12 月 12 日

今年 6 月から応募を開始した第 11 回宮本賞（学生懸賞論文）には、日本、中国から合計 44 本（学部生：25 本、院生 19 本）の応募がありました。

12 月中旬に宮本賞審査委員会を開催し、以下の 12 本が受賞作として選ばれましたので、お知らせさせていただきます。受賞者の皆さん、おめでとうございます！

また、惜しくも選外となった応募者の皆さんにおかれましては、次回以降の奮起を引き続き期待しております。

3 月下旬までには都内の会場と遠隔地の受賞者をオンラインで結び、ハイブリッド方式にて授賞式並びに若者シンポジウムを行う予定です。詳細は確定次第 HP 他を通じて連絡いたします。ご期待ください。

（宮本賞審査委員会・実行委員会）

\*\*\*\*\*

## 第 11 回宮本賞受賞作品について：

<学部生の部>最優秀賞 1 本、優秀賞 3 本、特別賞 3 本（合計 7 本）

【最優秀賞】 1 本（副賞：10 万円）

**嫌中感情に打ち勝つ「華流」の可能性 ～「韓流」との比較から見る～**

呉雨欣さん（東京大学法学部政治コース 4 年）

ACG 文化（主に中国語圏において用いられるに本のアニメ、漫画、コンピュータゲームなど「2 次元」コンテンツの総称）において、日本で最も成功した 2 つの ACG 作品を例に挙げ、その成功要因を分析。また、日本で人気を博す韓流との比較を通じ、中国の ACG 文化の日本での受容が対中認識改善に役立つ可能性を提起する一方、その限界についても指摘している。

【優秀賞】 3 本（副賞：3 万円）

**日中の異文化コミュニケーションについて**

**～日本語学習と職場経験を通じた日系企業の価値観とその展望～**

鄧麗姍さん（広東外語外貿大学日本語学部日本語通訳学科 1 年）

グローバル化と IT の普及を背景に「異文化コミュニケーション」が一般的になりつつある現在、筆者は日本語学習や日系企業での勤務経験などを振り返り、「異文化コミュニケーション」を通じて「自らの常識を超えた価値観」を入手することの重要性について、自身の体験を綴った。

**洪沢栄一の中国観から学ぶべきこと**

沈小溪さん（上海财经大学日本語学科卒業 1 年）

時代の趨勢により、洪沢栄一の中国観は変化しているが、その根底には実業家としての利益追求があった。しかし、戦争の時代にあっても、洪沢は対立よりも協調を求めており、両国

の友好関係のために働きかけ続けた。筆者は、現代の平和な時代において、わたしたちが渋沢栄一の精神を受け継ぎ、良好な日中関係を維持していくために動かない理由はない、と結論付ける。

### **インダストリアルメタバースの導入について～日中製造業の未来に向けて～**

木谷加奈子さん（明治大学経営学部経営学科4年）

近年、注目を浴びているメタバース事業。しかし、日本はその取り組みが遅れている。一方、中国では、メタバースの技術であるデジタルツインによってC2B型ビジネスといった新たな価値創造を行う企業が登場している。日本はこれから製造業にメタバースを導入していくにあたり、中国と協業し、学ぶとともに、自身の強みと掛け合わせていくことで新たな市場価値を生み出していくべきである。

【特別賞】3本（副賞：図書券／5000円相当）

### **介護ビジネスエコシステム構想の再吟味**

～日中の介護ロボットの開発と普及をめぐる検討～

チーム Furi(フーリ)（日本大学商学部 高久保豊ゼミナール）

代表者：二見啓介さん

奥井陸平さん、清水佳さん、中野いづみさん、耿奕錦さん

日中双方で高齢化が深刻な社会問題になっている。特に介護業界は、人口構成の高齢化に伴い、介護士不足など多くの問題を内包している。その解決策として介護ロボットに期待が集まっているが、両国においてその普及は十分に進んでおらず、研究を進める中で、普及を促進すると思われた介護業界におけるビジネスエコシステム構築には限界があることが判明した。一方、日中の事例調査などを通じ、広範かつ横断的な協業体制が不可欠であることが示唆された。

### **自動運転車の開発体制に関する一考察 ～中国式から学びうるもの～**

チーム PerTech パーテック（日本大学商学部高久保豊ゼミナール）

代表者：鈴木祐弥さん

須田直幸さん、小池栞理さん、白石優太さん、向響生さん

日本における自動運転車開発は、その普及の目的を事故や渋滞などの解決策と位置づける一方、中国ではスマートシティに向けた動きの一環としている。また、日本は依然として垂直統合型生産方式を基本とするが、中国では水平分業型の開発体制を採択するなど、自動運転車の開発体制に自体にも明確な違いが見られる。自動運転車の開発と普及には車・道路・クラウドをめぐる官民連携が不可欠であり、この点において日本が中国から学べる点が少なくないことが浮き彫りとなった。

### **中国のフードデリバリーから見る「民間レベルの日中関係」**

青山学院大学国際政治経済学部陳継東ゼミ（3年）

有次里咲さん、一瀬知恵さん、小澤眞有さん、小谷野浩太さん、坂田濤司さん、櫻庭駿介さん、趙哲偉さん、山口杏菜さん

日中両国で急拡大するデリバリー市場。中国では、企業が定めているペナルティ制度により、配達に関する数々の問題が生じているが、その背景には中国の格差の象徴である「戸籍制度」の存在や、責任の所在を明らかにすることを重要視する「中国人の国民性」などが見えてきた。日本のフードデリバリー市場の特性も踏まえ、状況改善のための提案を試みる。

**<院生の部>最優秀賞 1本、優秀賞 2本、特別賞 2本（合計：5本）**

**【最優秀賞】 1本（副賞：10万円）**

#### **近代日中における「常識」論に対する一考察**

張愉佩さん（武漢大学中国伝統文化研究センター修士3年）

Common sense の訳語「常識」は明治日本で確立された後、中国に逆輸入された。現代では中国語、日本語とも「常識」を一般知識という意味で理解するケースが多いが、成立史を遡れば、中日両国における「常識」の意味するところには異なる特徴があり、倫理にかかわるかどうか、また普遍的かナショナリスティックなものか、といった観点から分析できる。

**【優秀賞】 2本（副賞：3万円）**

#### **古代日中の文化交流に関する考古学的考察～特殊須恵器からみた～**

陳永強さん（名古屋大学大学院人文学研究科 博士前期課程2年）

日本の特殊須恵器のうち角杯、皮袋形瓶、環状瓶という三器種には、中国の東北部と中原の文化の要素が見られる。角杯と皮袋形瓶は、当時の倭国が受け入れた中国北方系民族の文化が造形に反映された。また、隋唐の中国統一を経た7、8世紀には日本でも中国を範とする律令制国家が志向されており、遣隋使と遣唐使を通じ環状瓶の技術がもたらされた。

#### **中国人の心を奪った村上春樹作品の翻訳戦略**

##### **～林少華の翻訳目的と彼の「塩味」に関する考察～**

王霄漢さん（東北大学大学院国際文化研究科博士2年）

中国で人気のある『ノルウェイの森』の翻訳は林少華による。林は、日本語の文法構造に拘泥せず、親しみやすい中国語に整え、読者の琴線に触れるよう心がけた。その工夫を彼は「塩味」と説明する。それは中国人読者の嗜好に合わせた比喩や誇張表現であり、また一字、二字を入れ替えながら似た詩句を繰り返す「晷詠体」という伝統的句法を活用したものだ。

**【特別賞】 2本（副賞：図書券／5000円相当）**

#### **和して同ぜず：雅楽「太平楽」の生成と変容**

向偉さん（北京大学外国語学院日本語文化系博士課程4年）

雅楽「太平楽」は天皇即位礼などで上演されてきた。その生成と変容の過程は導入期（9世紀以前）、過渡期（9～16世紀）、安定期（16世紀以降）の3段階に分けて考察できる。中国楽舞から派生した「太平楽」は変容を遂げて日本の伝統文化に内在化したものであり、通時的な視点で把握すれば、唐代楽舞の原形及び日本雅楽の魅力が見えてくる。

#### **周作人を変えた二つの体験 ～彼が女性解放運動で得たものは何か～**

張蕊さん（東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程）

周作人の婚姻に関する言論活動は 1918～27 年と 1949～51 年に集中的に行われた。與謝野晶子の論説に感銘した周はさらに一歩進め、男女関係をいかに見直すかという実践段階の提唱に踏み切った。過酷な人生でも挫折しない周の姿勢は、武者小路実篤の「新しき村」への訪問体験がバネとなったものだ。周は長い年月を経て中国婚姻法で遂に初志を実現した。

以 上